



子どもたちに泳ぎを教える星さん（右）

オリンピック銅メダリストに習ったよ

可児市B & G海洋センタープールが改修工事を終え、6月25日にリニューアルオープン式典を行いました。式典後にはリオデジャネイロオリンピック200メートルバタフライで銅メダルに輝いた星奈津美さんによる水泳教室が行われ、小学生50人が指導を受けました。星さんは足の使い方などを子どもたちにアドバイス。「夢を実現するには努力が必要。目標を持って頑張ってください」と激励しました。

七夕飾りでにぎやかに

6月30日、瀬田幼稚園の年長児31人が名鉄明智駅で七夕の飾り付けを行いました。名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の利用促進事業の一環として活性化協議会が企画したもので、今年で7回目となります。

園児たちは幼稚園の先生や駅員に手伝ってもらいながら、願いを込めて書いた短冊や飾りをササにくくり付けました。飾り付けの後には「たなばたさま」を合唱し、駅員たちから大きな拍手があがりました。



願いがかないますように



市職員に見送られ出発するKバス

Kタク・KバスでおでかけしよKar

7月2日、日曜日と祝日に市内の観光・文化施設を巡るコミュニティバス「おでかけしよKar」の実証運行が始まりました。皆さんのお出掛けのきっかけになるよう、12月24日まで試験的に運行し、平成30年度からの本格運行を目指します。

始発のバスを見に訪れていた市民は「このバスを利用して、文化創造センター・アーラに行って映画鑑賞などお休みを満喫したい」と笑顔で語ってくれました。

全国7つの文化活用の拠点に

市は今年度、文化庁の「先進的文化芸術創造活用拠点形成事業」の採択を受けました。この採択は、文化芸術活動を通して生き生きと暮らすことのできるまちづくりを目指す取り組みが高く評価されたものです。

市は2021年度までの5年間、国の支援を受けながら、英国の劇場との舞台共同制作や子どものいじめ防止、コミュニケーション能力を育成する事業などを展開していきます。



共同制作する英国の劇場が行っている公演（イメージ）

認知症ってなあに？

6月2日に旭小学校で認知症の普及・啓発を目的とした講話を行いました。この講話は、市が平成21年から取り組んでいる認知症サポーター養成講座事業の一環として行われたものです。

児童たちは「お年寄りは何歳から？」といった簡単な3択クイズや「今日の昼ごはんを覚えていますか？」といった身近な事例を取り入れた寸劇を通して、高齢者や認知症の人の特徴、認知症ともの忘れの違いなどを学びました。また、相手に優しく声を掛ける「あったか言葉」や困っていたら手を差し伸べる「あったか行動」など、普段から思いやりを持って相手に接することの大切さについて再確認しました。

市は今後も認知症啓発活動を行っていきます。互いに支え合い、誰もが安心して暮らせる温かいまちをつくっていきましょう。



寸劇の様子



クイズに答える児童たち



災害について学ぶ授業の様子

災害を知って備えよう

広見小学校で県可茂土木事務所の職員を講師に招き、防災をテーマにした授業を行いました。平成22年7月15日の豪雨災害で広見地区が浸水被害を受けたことをきっかけに、5年前から防災対策について学んでいます。

講師の新井さんが当時の災害の状況や発生する原因などを解説し、広見小学校が取り組んでいるハザードマップ作りについて「マップ作りで危険な場所が分かり、災害時に落ち着いて行動できる」と話しました。

市民の健康と安心づくりで連携

6月22日、市と日本生命保険相互会社岐阜支社は、市民の健康と安心づくりの推進を目的とする協定を結びました。

がん検診普及啓発リーフレットの配布や、地域における見守りや声掛け、認知症予防事業への協力など、健康・福祉について連携、協力を進めていきます。同社の中島啓支社長は「皆さんと実際に会う仕事を生かして、見守りなどの力になりたい」と話しました。



協定を締結する中島支社長（右）と富田市長